

## 令和7年度 第2回 九十九里町地域公共交通会議 顛末書

1. 日時 令和8年1月21日（水）14時30分～

2. 場所 中央公民館 3階 講義室

3. 出席者 藤原会長 他11名

4. 会議の議事

(1) 地域間幹線系統国庫補助金に係る「事業評価」について

・片貝循環豊海線 九十九里鉄道株式会社

・大網駅～白里海岸～サンライズ九十九里 小湊鉄道株式会社

(2) タクシー利用助成及びバス通学定期券購入補助の利用状況について

(3) 国の地方創生臨時交付金を活用した公共交通事業者支援について

## 委員名簿

九十九里町地域公共交通会議委員名簿			
区分		所属・職名等	氏名
1号委員	1	千葉県 総合企画部 交通計画課 地域公共交通担当課長	伊 藤 昌 央
	2	九十九里町副町長	藤 原 慎
	3	九十九里町健康福祉課長	戸 村 恵 子
	4	九十九里町まちづくり課長	木 原 隆 行
2号委員	5	九十九里鐵道株式会社 バス部 総括次長	古 川 敬
	6	京成バス千葉イースト株式会社 営業所長	今 井 明 彦
	7	千葉県バス協会 専務理事	成 田 斉
3号委員	8	有限会社片貝タクシー 代表取締役社長	松 島 健 一
	9	千葉県タクシー協会 東総支部 支部長	金 杉 幸 太 郎
4号委員	10	西の下自治区長	松 井 義 郎
	11	真亀丘1自治区長	中 村 利 幸
	12	真亀丘2自治区長	中 村 正 浩
	13	作田丘自治区長	林 章
	14	九十九里町社会福祉協議会事務局長	木 原 正 幸
5号委員	15	九十九里鐵道バス労働組合	宝 地 戸 祐 紀
6号委員	16	国土交通省 関東運輸局 千葉運輸支局 首席運輸企画専門官	福 浪 新 一
7号委員	17	千葉県東金警察署 交通課長	曾 根 芳 政
	18	千葉県 県土整備部 山武土木事務所 次長	根 来 良 知
8号委員	19	東日本旅客鉄道株式会社 茂原統括センター大網駅長	ト 部 大 介
	20	日本大学 理工学部 非常勤講師	藤 井 敬 宏
事務局	21	企画政策課長	羽 斗 伸 一
	22	企画政策課地域政策係長	山 田 昌 之
	23	企画政策課地域政策係	大 森 一 平
	24	企画政策課地域政策係	後 藤 慧

議事の要旨

	議事・意見等の内容・決定事項等
事務局	<p>議事(1) 地域間幹線系統国庫補助金に係る「事業評価」について</p> <p>て</p> <p>《議事(1) 地域間幹線系統国庫補助金に係る「事業評価」について</p> <p>事務局より資料説明</p>
藤原会長	<p>委員の皆様から、質問・意見等はございますか。</p> <p>「なし」</p> <p>異議なしということで、本件は承認ということでよろしいでしょうか。</p> <p>「承認」</p>

事務局	<p>議事(2) タクシー利用助成及びバス通学定期券購入補助の利用状況について</p> <p>《議事(2) タクシー利用助成及びバス通学定期券購入補助の利用状況について</p> <p>事務局より資料説明</p>
藤原会長	<p>委員の皆様から、質問・意見等がございますか。</p>
松島委員	<p>現在、町が交付している助成タクシー券は町内での利用に限定されています。しかし、住民からは「町外の病院へ通院する際にも利用できるよう制度を見直してほしい」という要望が非常に多く寄せられています。特に、山武医療センターや浅井病院など、専門的な診療体制を求めて町外の医療機関を受診する高齢者が増えており、交通手段の確保が大きな負担となっています。現行制度では町外への移動に助成が適用されないため、利用者からは制度の柔軟化を求める声が強くあります。</p>

事務局	<p>町外の医療機関までタクシー助成券の利用範囲を拡大した場合、現在運行しているバス路線の利用率が低下する可能性があります。特に、町外への通院需要が助成によってタクシーへ流れると、公共交通の利用者が減少し、将来的には路線維持のための運行コストやダイヤの確保にも影響が及ぶことが懸念されます。公共交通は地域住民全体の移動手段として重要な役割を担っているため、その利用率の低下は町全体の交通環境に長期的な影響を与えかねないため、このような点から、助成券の対象範囲を町外まで広げることについては慎重な検討が求められます。また、社会福祉課で行っている福祉タクシーの制度があるのでそちらの利用を推奨しています。</p>
松島委員	<p>ありがとうございました。もう一点、降車時、タクシー券へ行先や乗車人数等の記入に時間がかかるので、もう少し簡素化してほしいです。</p>
事務局	<p>タクシー助成券の記入方法について、乗務員の皆様から「乗車人数や行先など、記入しなければならない項目が多く、業務負</p>

	<p>担が大きい」とのご意見をいただいております。現行の様式では、助成内容の確認や適正な運用のために一定の記入項目を設けていますが、実際の運用において記入作業が煩雑になっている点は認識しております。</p> <p>来年度は、記入項目の見直しや様式の改善など、現場での負担軽減につながる方法について検討を進めてまいります。利用者・事業者双方にとって使いやすい制度となるよう、引き続き改善に努めてまいります。</p>
藤原会長	<p>委員の皆様から、他に質問・意見等はございますか。</p>
竹田委員	<p>通学時のバス利用について、日頃感じていることを少し共有させていただきます。雨天時であっても、普段からバスを利用しているのは女子生徒が比較的多い印象があります。一方で、男子生徒は雨の日でも自転車で通学することが多いように見受けられ、利用の割合に差があるように感じています。</p> <p>こうした傾向には、何か背景となる理由があるのか、事務局の皆さまが把握されている範囲でお考えを伺えればと思います。</p>

事務局

はい、男子生徒が女子生徒に比べて自転車通学を選ぶ割合が高い理由についてですが、いくつか背景として考えられる点がございます。まず、男子生徒は日頃から自転車の利用に慣れており、多少の天候不良であってもそのまま自転車で通学することに抵抗が少ない傾向が見られます。自分のペースで移動できることや、時間の自由度が高いことを重視している生徒も多いようです。

また、部活動の関係で荷物が多かったり、帰宅時間が遅くなったりする場合、自転車の方が柔軟に対応できるという点も理由の一つとして考えられます。特に近隣の高校へ通う生徒の場合、距離が比較的近いケースも多く、自転車の方が早く到着できるという実感を持っている生徒も少なくありません。

さらに、バスの混雑を避けたいという気持ちや、友人同士で自転車通学をする習慣が根付いていることなど、生活スタイルや周囲の環境も影響していると考えられます。こうした複数の要因が重なり、男子生徒は女子生徒に比べて自転車通学を選ぶ傾向が強くなっているものと思われれます。

竹田委員	ありがとうございました。
藤原会長	<p>委員の皆様から、他に質問・意見等はございますか。</p> <p>「なし」</p> <p>異議なしということで、本件は承認ということでよろしいでしょうか。</p> <p>「承認」</p>
事務局	<p><b>議事(3) 国の地方創生臨時交付金を活用した公共交通事業者支援について</b></p> <p>《議事(3) 国の地方創生臨時交付金を活用した公共交通事業者支援について</p> <p>事務局より資料説明</p>

藤原会長

委員の皆様から、質問・意見等がございますか。

「なし」

異議なしということで、本件は承認ということでよろしいでしょうか。

「承認」

《 閉 会 》

以上で第2回九十九里町地域公共交通会議を閉会いたします。

以上

